

2006年11月

## 首都圏在住の小中学生の親に聞いた 『美術館・博物館の利用に関するアンケート調査』

～育児世代の要望は、「入場料金を安く」「学校教育との連携を」「子どもでも利用しやすく」が多い～

第一生命保険相互会社(社長 斎藤 勝利)のシンクタンク、(株)第一生命経済研究所(社長 石嶺 幸男)では、首都圏に居住する小学生・中学生の親451名を対象に、標記についてのアンケート調査を実施いたしました。

この程、その調査結果がまとまりましたのでご報告いたします。

### 《調査結果のポイント》

#### 美術館・博物館とのかかわり (P2～5)

- 育児世代は、「美術館」よりも「博物館」によく足を運んでいる。
- 子どもが小さいほど、美術館・博物館には足を運びにくい。
- 美術館・博物館に行くことが好きな(「生活のスケジュールにいつも入っている」)人は、約6割が美術館に「2～3カ月に1回位」行き、5割弱が博物館に「月に1～2回位」行く。
- 美術館に行くようになったきっかけは、「子どもに芸術文化に触れさせたい」(50%)が最も多い。
- 博物館に行くようになったきっかけは、「子どもの教育のため」(82%)が最も多い。
- 美術館・博物館ともに、自分が子ども時代に「親と一緒によく足を運んだ」人の方が、そうではない人に比べて、子どもと一緒に行くことが多い。

#### よく行く美術館・博物館の種類とその理由 (P6～7)

- 博物館の中でよく行く種類は、「科学博物館」(52%)が最も多い。
- 科学博物館によく行く理由としては、「子どもでも楽しめる」(88%)が最も多い。
- 歴史博物館によく行く理由としては、「子どもの教育になる」(70%)が最も多い。
- 美術館によく行く理由としては、「展示物が面白い」(75%)が最も多い。

#### 美術館・博物館に行かなくなった理由 (P8)

- 美術館・博物館に行かなくなった理由としては、「身近なところがない」「行きたくても行く時間がない」がともに4割以上と、物理的アクセスのしにくさが影響している。
- 美術館に行かなくなった理由としては、「行きたくても、子ども連れでは自分がゆっくりと鑑賞できない」(55%)が最も多い。

#### 美術館・博物館への要望 (P9)

- 美術館・博物館への要望としては、ともに「入場料金を安くする」が最も多い。
- 美術館に行かなくなった人の要望としては、「子どもたちが楽しめるようにする」(63%)、「子どもの教育に寄与するようなワークショップや鑑賞教室などを充実させる」(51%)も多い。

#### ＜お問い合わせ先＞

(株)第一生命経済研究所 ライフデザイン研究本部  
研究開発室 広報担当(丹野・新井)  
TEL. 03-5221-4771  
FAX. 03-3212-4470

【アドレス】<http://group.dai-ichi-life.co.jp/dlri/ldi>

☆本報告書は、当研究所から隔月発行している『ライフデザインレポート』11-12月号をもとに作成したものです。  
レポートご希望の方は、左記の広報担当、またはホームページからお申し込みください。

## 《アンケート調査の実施概要》

1. 調査地域と対象 首都圏(東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県)在住の小学生・中学生の親
2. サンプル数 451名
3. サンプル抽出方法 第一生命経済研究所生活調査モニター
4. 調査方法 質問紙郵送調査法
5. 実施時期 2005年11月
6. 有効回収数(率) 430名(95.3%)
7. 回答者の属性

(単位:人)

	20代	30代	40代	50代	合計
男性	0 (0.0%)	28 (21.7%)	81 (62.8%)	20 (15.5%)	129 (100.0%)
女性	7 (2.3%)	137 (45.5%)	145 (48.2%)	12 (4.0%)	301 (100.0%)
合計	7 (1.6%)	165 (38.4%)	226 (52.6%)	32 (7.4%)	430 (100.0%)

8. その他

本調査では、「美術館」とは、絵画・彫刻・工芸品・陶芸等、芸術文化作品を扱っている施設、「博物館」とは、科学博物館(自然物を取り扱う自然系博物館や、交通や鉄道等産業技術に関する博物館等)や歴史博物館(郷土資料館や、歴史資料、歴史的人物、作家等の記念館等)、資料館(企業博物館等、様々なモノのコレクションの展示施設等)等、様々なモノを扱っている施設のことを示す。

# 美術館・博物館とのかかわり

育児世代は、美術館よりも博物館によく足を運んでいる。  
子どもが小さいほど、美術館や博物館には足を運びにくい。

図表1 美術館・博物館とのかかわり(性別、末子の年代別)

(単位:%)

		美術館・博物館 へ行くことが好きで、生活のスケジュールにいつも入っている	たまに、家族や友人との交流を楽しむために行く程度である	以前はよく行ったが、最近では行かなくなってしまった	自分にはまったく関係ない	無回答
美術館	全体(N=430)	3.0	30.5	31.9	34.0	0.6
	性別					
	男性(N=129)	3.9	30.2	31.0	34.1	0.8
	女性(N=301)	2.7	30.6	32.2	33.9	0.6
	末子の年代別					
	末子が未就学児(N=132)	0.8	22.7	40.2	35.6	0.8
	末子が小学生(N=211)	3.8	33.2	27.0	35.1	0.9
末子が中学生(N=80)	5.0	36.3	30.0	28.8	0.0	
博物館	全体(N=430)	2.6	55.6	22.8	17.4	1.6
	性別					
	男性(N=129)	6.2	45.0	31.0	17.1	0.7
	女性(N=301)	1.0	60.1	19.3	17.6	2.0
	末子の年代別					
	末子が未就学児(N=132)	2.5	41.3	42.5	13.8	0.0
	末子が小学生(N=211)	3.8	59.7	16.6	17.1	2.8
末子が中学生(N=80)	0.8	60.6	18.9	18.9	0.8	

美術館・博物館とのかかわりについてたずねたところ、美術館では「自分にはまったく関係ない」(以下「関係ない」)が34.0%で最も多く、次いで「以前はよく行ったが、最近では行かなくなってしまった」(以下「最近では行かなくなった」)が31.9%、「たまに、家族や友人との交流を楽しむために行く程度である」(以下「たまに行く」)が30.5%で、「美術館へ行くことが好きで、生活のスケジュールにいつも入っている」(以下「スケジュールに入っている」)は3.0%と少数でした。これらから、“あまり足を運んでいない”(「関係ない」+「最近では行かなくなった」)は6割以上と、“足を運んでいる”(「スケジュールに入っている」+「たまに行く」)の約3割を大きく上回っていることがわかりました。これに対して博物館では、“足を運んでいる”が約6割と、“あまり足を運んでいない”の約4割を上回っており、**育児世代は美術館よりも博物館の方によく足を運んでいる**ようです。

性別にみると、美術館の場合、男女の回答は同じような傾向ですが、博物館の場合には、女性の約6割が「たまに行く」と回答しており、**男性よりも女性の方が足を運んでいる割合が高い**ことがみとれます。

末子の年代別にみると、美術館の場合、「末子が未就学児」では「最近では行かなくなった」が4割と最も多く、「たまに行く」は2割程度です。しかし、「末子が小学生」や「末子が中学生」では、相対的に「最近では行かなくなった」が減り、「たまに行く」が増えます。博物館でも同じような傾向がみられ、「末子が小学生」や「末子が中学生」では、「たまに行く」が約6割に及んでいます。また、美術館にしても、博物館にしても、「末子が未就学児」の約4割が「最近では行かなくなった」と回答しており、**小さい子どもがいる育児世代ほど、美術館や博物館はなかなか足を運びにくいところである**ことがうかがえます。

## 美術館・博物館に行く頻度

美術館・博物館に行くことが好きな人(「スケジュールに入っている」)は、美術館には「2～3カ月に1回位」が約6割と最も多く、博物館には「月に1～2回位」(45%)と「2～3カ月に1回位」(54%)が約半数ずつ。

図表2 美術館・博物館に行く頻度(かかわりの程度・館種別)

		(単位:%)				
	施設	月に 1～2回位	2～3カ月 に1回位	年に 1～2回位	ほとんど 行かない	無回答
美術館・博物館に行くことが好きで、生活のスケジュールにいつも入っている	美術館(N=13)	0.0	61.5	38.5	0.0	0.0
	博物館(N=11)	45.5	54.5	0.0	0.0	0.0
たまに家族や友人との交流を楽しむために行く程度である	美術館(N=131)	3.1	16.8	68.7	10.7	0.8
	博物館(N=239)	3.3	18.0	74.9	3.8	0.0
以前はよく行ったが、最近では行かなくなってしまった	美術館(N=137)	0.0	0.7	46.0	53.3	0.0
	博物館(N=98)	0.0	2.0	43.9	54.1	0.0
自分にはまったく関係ない	美術館(N=146)	0.0	0.0	4.8	95.2	0.0
	博物館(N=75)	0.0	0.0	9.3	90.7	0.0

美術館・博物館とのかかわりの程度、及び館種別に、それぞれの施設に実際に行く頻度をたずねました。

その結果、「スケジュールに入っている」人は、美術館には「2～3カ月に1回位」が約6割(61.5%)と最も多く、博物館には「月に1～2回位」(45.5%)と「2～3カ月に1回位」(54.5%)が約半数ずつとなっています。

「たまに行く」人は、美術館・博物館ともに、「年に1～2回位」が約7割と最も多く、次いで多い「2～3カ月に1回位」は2割弱となっています。

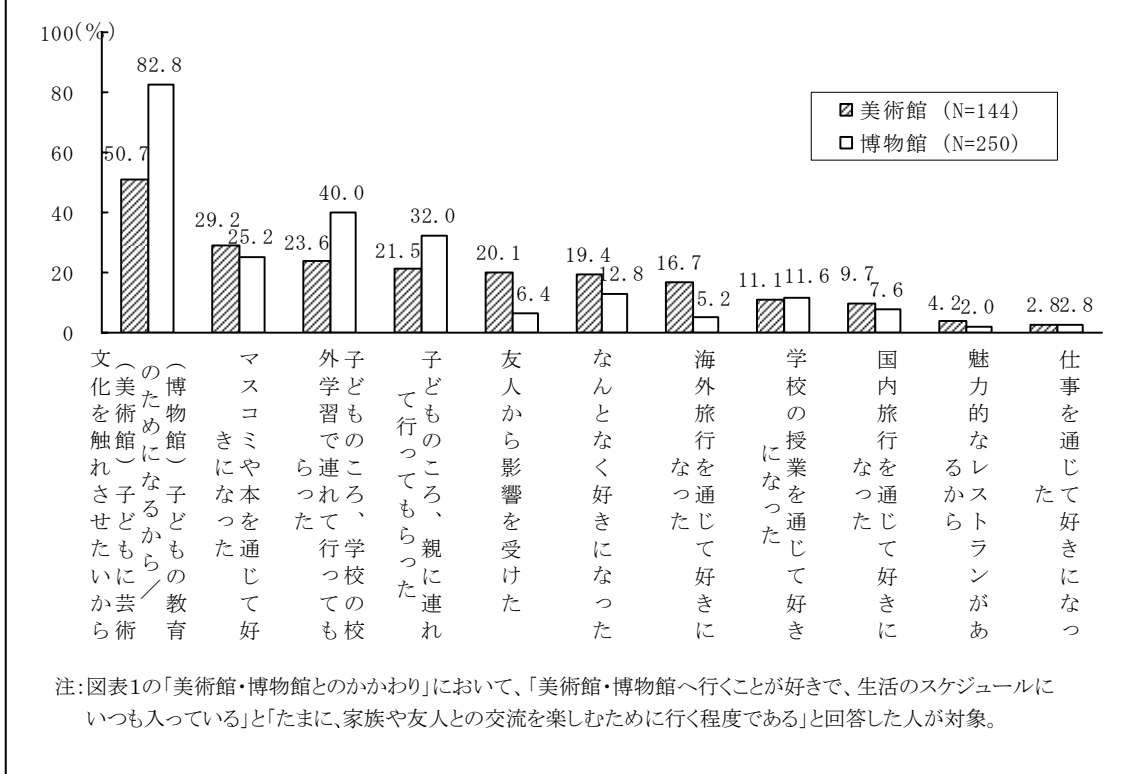
「最近では行かなくなった」人は、美術館・博物館ともに、約半数が「ほとんど行かない」と回答しているものの、残り約半数は「年に1～2回位」の頻度で足を運んでいることがわかりました。

「関係ない」人は、美術館・博物館ともに、9割以上が「ほとんど行かない」と回答しています。

# 美術館・博物館に行くようになったきっかけ

美術館では「子どもに芸術文化に触れさせたい」(50%)、博物館では「子どもの教育のために」(82%)と、どちらも子どものための影響が最も多い。美術館・博物館ともに、自分の子ども時代の体験も影響を及ぼしている。

図表3 美術館・博物館に行くようになったきっかけ<複数回答>



美術館・博物館に足を運んでいる人に対して、それぞれの施設に行くようになったきっかけをたずねました。

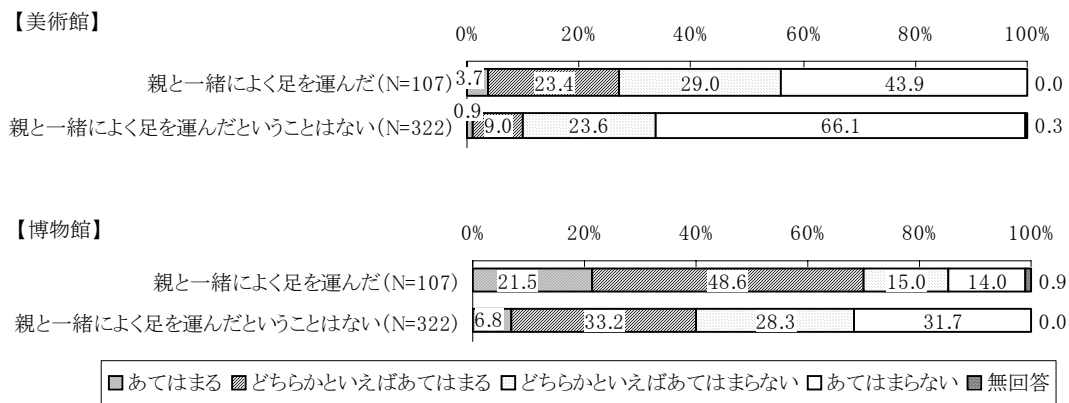
その結果、美術館については、「子どもに芸術文化に触れさせたいから」(50.7%)が最も多く、次いで「マスコミや本を通じて好きになった」(29.2%)と情報メディアからの影響が大きいことがわかりました。さらに、「子どものころ、学校の校外学習で連れて行ってもらった」(23.6%)と「子どものころ、親に連れて行ってもらった」(21.5%)が約2割と、約5人に1人が自分の子ども時代の体験から美術館に行くようになったと回答しています。

博物館については、「子どもの教育のためになるから」(82.8%)が最も多く、美術館同様、子どものために利用するようになった人が多いことがわかりました。次いで、「子どものころ、学校の校外学習で連れて行ってもらった」(40.0%)と「子どものころ、親に連れて行ってもらった」(32.0%)が多く、美術館同様、多くの人が子ども時代の体験から影響を受けていますが、その傾向は博物館の方が強いことがみてとれます。

# 子どもと一緒に美術館・博物館に行くか？

美術館・博物館ともに、自分が子ども時代に「親と一緒によく足を運んだ」人の方が、そうではない人に比べて、子どもと一緒にいる。

図表4 子どもと一緒に美術館・博物館に行くか(子ども時代の経験別)



注:「親と一緒によく足を運んだ」は、「自分が子どものころ、親と一緒に美術館や博物館によく足を運んだ」という質問項目に対して、「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」の回答者の合計であり、「親と一緒によく足を運んだということはない」は、同じ質問項目に対して「あてはまらない」と「どちらかといえばあてはまらない」の回答者の合計。

自分自身の子ども時代の経験が、親になってから美術館・博物館へ行くことに影響を及ぼしているかどうかをみるために、子どもと一緒に美術館・博物館に行くかをたずねました。

その結果、美術館については、“子どもと一緒に行く”（「あてはまる」＋「どちらかといえばあてはまる」）と回答した人は、「親と一緒によく足を運んだということはない」（9.9%）人よりも、「親と一緒によく足を運んだ」（27.1%）人の方が多いことがわかりました。

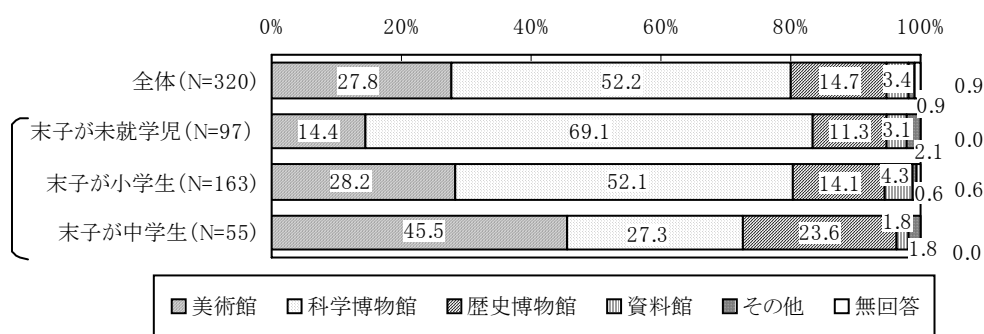
また、博物館についても同様で、「親と一緒によく足を運んだということはない」（40.0%）人に比べ、「親と一緒によく足を運んだ」（70.1%）人の方が多いことがみられます。

これらから、自分が子ども時代に親と一緒に美術館・博物館に足を運んだことのある人の方が、親になってから子どもと一緒に美術館・博物館に行くことが多いといえます。

## よく行く美術館・博物館の種類

全体では、「科学博物館」(52%)が最も多く、次いで「美術館」(27%)、「歴史博物館」(14%)。子どもが小さい間は「科学博物館」が多く、大きくなるにつれ「美術館」と「歴史博物館」によく行く人が増える。

図表5 よく行く美術館・博物館の種類(末子の年代別)



注:美術館・博物館のいずれか、あるいは両方に、「年に1回以上」行くと回答した人が対象。

これまで、美術館・博物館という分類によって、かかわりの程度や足を運ぶようになったきっかけ等をたずねた結果を示してきました。しかし、実際には、「博物館」といっても様々な種類があります。そこで、「博物館」を細かく分類し、美術館と比較したうえで、育児世代の館種別の選択傾向を明らかにしました。

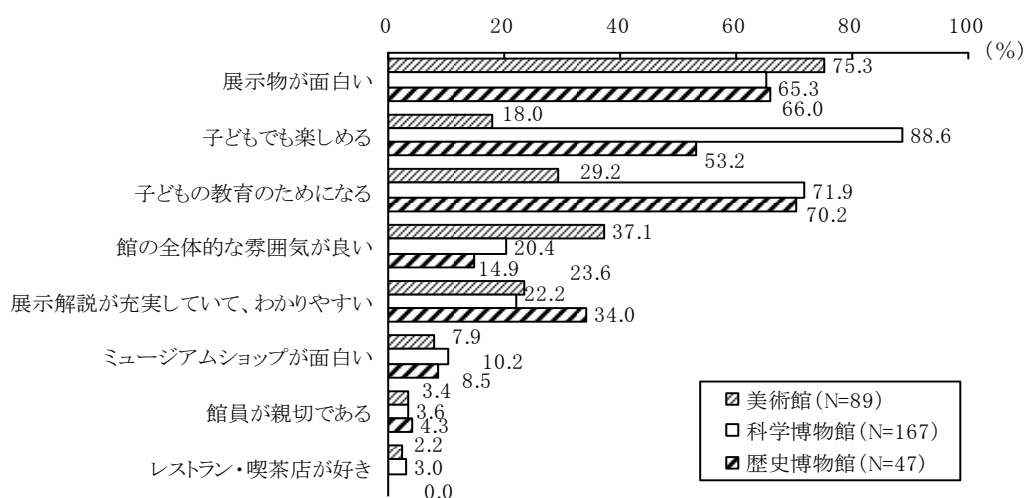
美術館・博物館を問わず、「年に1回以上」行く人に、よく行く施設の種類を1つだけあげてもらった結果、全体で最も多いのは「科学博物館」(52.2%)で、次いで「美術館」(27.8%)、「歴史博物館」(14.7%)、「資料館」(3.4%)の順となりました。

これを末子の年代別にみると、「末子が未就学児」では約7割(69.1%)が「科学博物館」と回答していますが、「末子が小学生」になると、その割合は約半数(52.1%)になります。さらに、「末子が中学生」になると、「科学博物館」の割合は3割弱(27.3%)にまで減少し、相対的に「美術館」(45.5%)や「歴史博物館」(23.6%)が増加しています。これらから、子どもが小さい間は「科学博物館」が多く、大きくなると「美術館」によく行く人が増える傾向がみてとれます。

## 美術館・博物館によく行く理由

最も多い理由は、美術館では「展示物が面白い」(75%)、  
科学博物館では「子どもでも楽しめる」(88%)、  
歴史博物館では「子どもの教育のためになる」(70%)。

図表6 美術館・博物館によく行く理由(館種別)＜複数回答＞



注:美術館・博物館のいずれか、あるいは両方に、「年に1回以上」行くと回答した人が対象。

「資料館」はサンプル数が少ない(N=11)ため、集計結果の提示を省略。

美術館・博物館を問わず、「年に1回以上」行く人に、よく行く理由をたずねた結果、施設の種類によって傾向が異なっていました。

「美術館によく行く」人は、「展示物が面白い」(75.3%)に回答が集中し、「科学博物館によく行く」人は、「子どもでも楽しめる」(88.6%)と「子どもの教育のためになる」(71.9%)が多く、「歴史博物館によく行く」人は、「子どもの教育のためになる」(70.2%)と「展示物が面白い」(66.0%)が多い結果となりました。

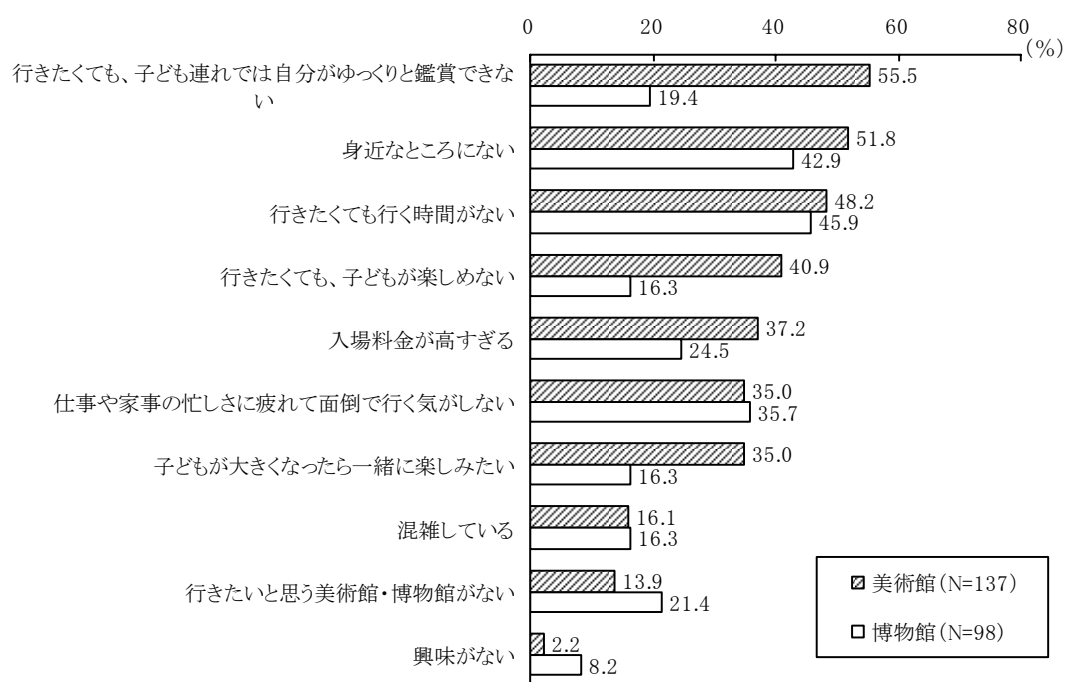
また、「子どもでも楽しめる」の回答割合は、「科学博物館」(88.6%)では9割近いのに対して、「美術館」(18.0%)では2割にも満たないことがみてとれます。このことから、小さな子どもがいる家庭にとっては、「子どもでも楽しめるか否か」が足を運ぶポイントになっているようです。



## 美術館・博物館に行かなくなった理由

美術館・博物館ともに多い理由は、「身近なところがない」「行く時間がない」が4割以上と、物理的アクセスのしにくさが影響している。美術館では、“行きたくても子ども連れでは無理”という思いが強い。

図表7 美術館・博物館に行かなくなった理由(館種別)＜複数回答＞



注: 図表1の「美術館・博物館とのかかわり」において、「以前はよく行ったが、最近に行かなくなってしまった」と回答した人が対象。

「美術館・博物館とのかかわり」において、「以前はよく行ったが、最近に行かなくなってしまった」と回答した潜在的利用者層に対し、なぜ行かなくなったのかをたずねました。

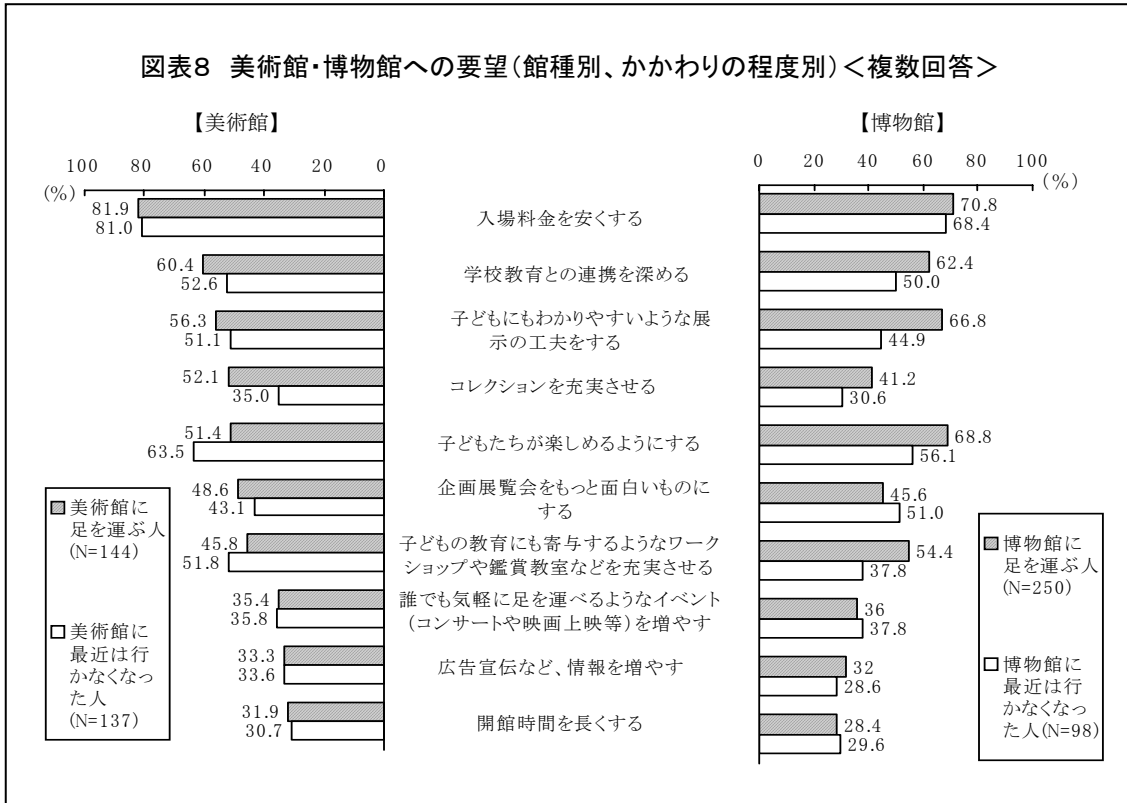
その結果、美術館・博物館ともに多いのは、「身近なところがない」や「行きたくても行く時間がない」が4割以上と、それぞれの施設に対する物理的アクセスのしにくさが示唆されていました。

他方、「行きたくても、子ども連れでは自分がゆっくりと鑑賞できない」や「行きたくても、子どもが楽しめない」といった子どもに関連した項目は、美術館では4割以上なのに対し、博物館では2割にも満たず、両者の間で差が大きいことがみてとれます。特に、美術館の場合は、“実際には行きたい気持ちはあるが、子ども連れでは無理”と思い、足を運ばない人が多いようです。

# 美術館・博物館への要望

美術館・博物館ともに最も多い要望は、「入場料金を安くする」。  
 美術館において、「最近では行かなくなった人」の方が多い要望は、  
 「子どもたちが楽しめるようにする」(63%)、「子どもの教育にも  
 寄与するようなワークショップや鑑賞教室などを充実させる」(51%)。

図表8 美術館・博物館への要望(館種別、かかわりの程度別)＜複数回答＞



美術館・博物館それぞれに対して、特に力を入れてほしいと思うことをたずねました。  
 美術館・博物館に足を運んでいる人も、最近行かなくなった人も、また、美術館に対しても博物館に対しても、**共通して最も多いのは「入場料金を安くする」**でした。  
 美術館・博物館への要望の第2位以下は、館種によって、あるいは、かかわりの程度によって若干異なりますが、**全体的な傾向としては、「学校教育との連携を深める」「子どもにもわかりやすいような展示の工夫をする」「子どもたちが楽しめるようにする」に多くの回答が寄せられています。**特に、**美術館については、「子どもたちが楽しめるようにする」「子どもの教育にも寄与するようなワークショップや鑑賞教室などを充実させる」は、「最近では行かなくなった人」の方が多く**ことがみてとれます。

前述のように、美術館の場合は、“子ども連れ”が理由となって最近では行かなくなってしまった人が多いことから、子どもへの配慮を充実させることが、育児世代の潜在的な利用者層の利用を促すことにつながると思われます。

## 《研究員のコメント》

以上、主に育児世代の美術館・博物館に対する利用実態や意識についてみてきました。育児世代は概して、美術館よりも博物館の方によく足を運んでいるようです。また、子どもの年代によって、美術館・博物館とのかかわりは異なり、小さい子どもがいる家庭ほど美術館・博物館とのかかわりは薄く、とりわけ美術館にはあまり足を運ばない実態がわかりました。

しかしながら、美術館にしても、博物館にしても、そのかかわりにおける共通点は、回答者自身が子どものころ親に連れて行ってもらった経験がきっかけとなって、足を運ぶようになった人が多いということです。実際に、自分が親になった今、「自分が子どものころ、親と一緒に美術館や博物館によく足を運んだ」という人は、そうでない人に比べて「子どもと一緒に美術館や博物館によく足を運ぶ」人が多い傾向があります。このことから、多くの人々にとって、子ども時代の経験が、親になったときの美術館・博物館とのかかわりに影響を与えていることがうかがえます。

さらに本調査から明らかになったことは、特に美術館の場合、「本当は行きたい気持ちはあるが、子ども連れでは無理」と思っている人が多いということです。つまり、小さな子どもがいる家庭にとっては、「子どもでも楽しめるか否か」が美術館・博物館に足を運ぶポイントになっているといえます。

これらから、育児世代の美術館・博物館とのかかわりを決める背景には、「家庭から受ける影響」と「子どもの利用のしやすさ」が関係していることが指摘できます。

また、美術館・博物館への要望として、育児世代の多くが「子どもにもわかりやすいような展示等の工夫を行い、楽しめるような空間を演出すること」とともに、「学校教育との連携を深めること」を期待しています。学校教育の中で美術館・博物館が利用されるようになれば、それを体験した子どもが家族に影響を与え、今度は家族で美術館・博物館に足を運ぶ道が開かれます。しかも、子ども時代の経験が将来に影響を与えていることを踏まえると、そのような体験をした子どもの多くは、自分が大人になったときに美術館・博物館とのかかわりを持った生活をするようになるでしょう。

したがって、美術館・博物館が子どもの利用を意識した取り組みを行い、親や学校と連携して子どもの利用を促せば、将来の顧客を育てることもつながり、また、そのことは、美術館・博物館の存続にも大きく寄与し、同時に社会的価値を高めると思われます。

(研究開発室 副主任研究員 的場 康子)